



2027年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年8月7日

上場会社名 株式会社AOKIホールディングス 上場取引所 東
コード番号 8214 URL <https://www.aoki-hd.co.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 田村 春生
問合せ先責任者 (役職名) IR室長 (氏名) 江口 聡 (TEL) 045-941-1388
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無 : 有
決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2027年3月期第1四半期の連結業績(2026年4月1日～2026年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2027年3月期第1四半期	43,045	△1.6	1,180	△49.9	1,041	△54.6	318	△75.6
2026年3月期第1四半期	43,741	2.0	2,356	0.1	2,294	3.7	1,307	△19.4

(注) 包括利益 2027年3月期第1四半期 151百万円(△87.9%) 2026年3月期第1四半期 1,252百万円(△11.8%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2027年3月期第1四半期	3.79	—
2026年3月期第1四半期	15.55	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2027年3月期第1四半期	206,056	140,310	67.9
2026年3月期	225,455	145,208	64.3

(参考) 自己資本 2027年3月期第1四半期 140,006百万円 2026年3月期 144,902百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年3月期	—	20.00	—	60.00	80.00
2027年3月期	—				
2027年3月期(予想)		30.00	—	60.00	90.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2027年3月期の連結業績予想(2026年4月1日～2027年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	200,000	2.8	18,000	6.2	17,500	6.9	10,000	5.7	118.82

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2027年3月期1Q	86,649,504株	2026年3月期	86,649,504株
② 期末自己株式数	2027年3月期1Q	2,491,540株	2026年3月期	2,491,481株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2027年3月期1Q	84,157,979株	2026年3月期1Q	84,097,697株

- ※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件等については、添付資料3ページ「（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（決算補足説明資料について）

・決算補足説明資料については、2026年8月7日（金）にTDnetに開示するとともに当社ホームページに掲載しております。

○添付資料の目次

	頁
1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期累計期間の経営成績の概況	2
(2) 当四半期累計期間の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(セグメント情報等の注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	9

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期累計期間の経営成績の概況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用や所得環境の改善を背景に緩やかな回復基調で推移いたしました。一方で、中東情勢の緊迫化や継続する物価上昇等の影響による消費者の節約志向の強まりなど、先行きは不透明な状況が続いております。

このような環境のなかで、当社グループは下記のような諸施策を実施した結果、売上高は430億45百万円（前年同期比1.6%減）、営業利益は11億80百万円（前年同期比49.9%減）、経常利益は10億41百万円（前年同期比54.6%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は3億18百万円（前年同期比75.6%減）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりです。

(ファッション事業)

ファッション事業のAOKIでは、年々厳しさを増す夏のビジネスシーンでの快適性をさらに高めた高通気の「スーパーエアクールシリーズ」を新たに展開し、スーツをはじめ各種コーディネートアイテムを拡充するなど、商品開発と品揃えを強化いたしました。また、高機能レディースウェア・ブランド「MeWORK（ミワーク）」では、清涼感のある素材を使用し、機能性とデザイン性を両立させた夏の新作セットアップなど「神ラクシリーズ」のアイテムを拡充いたしました。ORIHICAでは、マーケットシェア拡大と認知度向上のため出店を継続するとともに、夏のビジカジウェア需要の取り込みに向け、機能性と着心地を追求した人気商品「ビズポロ」のラインナップの充実を図りました。店舗面では、ORIHICAで3店舗を新規出店した一方、営業効率改善のためAOKIで1店舗を閉鎖した結果、当第1四半期末の店舗数は613店舗（前期末611店舗）となりました。

これらの結果、5月まではカジュアル衣料の伸長等により既存店が堅調に推移したものの、6月の天候不順による気温低下等の影響を受け、売上高は213億33百万円（前年同期比4.2%減）、営業損失は2億2百万円（前年同期は営業利益7億53百万円）となりました。

(エンターテインメント事業)

複合カフェの快活CLUBでは、鍵付完全個室店舗の拡大を進めるとともに、「極そうめん」など期間限定メニューの提供及びダーツキャンペーンをはじめとする販促施策の実施等により、集客強化と客単価向上に注力いたしました。カラオケのコート・ダジュールでは、夏らしさを打ち出した季節限定メニューなど飲食メニューの拡充を図るとともに、スポーツ観戦などカラオケ以外の利用シーンを提案することで、幅広い客層の集客に努めました。24時間営業のフィットネスジムのFIT24では、開業7周年記念の限定キャンペーンや各種イベントの開催及びトレーニングサポート「スタサポ」の強化等により新規会員の獲得に注力するとともに、マナー向上推進により全てのお客様が快適にトレーニングに打ち込める環境整備に努めました。店舗面では、快活CLUBで3店舗及びFIT24で2店舗を新規出店した一方、営業効率改善のため、快活CLUB及びコート・ダジュールでそれぞれ2店舗を閉鎖した結果、ランシシステムの複合カフェ自遊空間他82店舗（内フランチャイズ46店舗）を含め、当第1四半期末の店舗数は775店舗（前期末773店舗）となりました。

これらの諸施策の実施等により客数が増加し既存店が堅調に推移した結果、売上高は185億96百万円（前年同期比2.0%増）、営業利益は16億8百万円（前年同期比3.9%増）と増収増益になりました。

(アニヴェルセル・ブライダル事業)

アニヴェルセル・ブライダル事業では、集客イベントへの参画や自主販促施策の拡充等により引き続き受注活動の強化に注力するとともに、多様化するお客様ニーズにお応えする商品・サービスの提案や、招待ゲスト数の増加に向けた各種取り組みなど、組単価の向上に努めました。また、企業の展示会やパーティーなど法人宴会需要のさらなる取り込みに向け、営業体制の強化や新たなサービスの開発を推進いたしました。

これらの諸施策の実施等により組単価は上昇した一方、前期のやや低調な受注に伴う施行組数の減少及び受注強化に向けた広告宣伝費等コストが増加した結果、売上高は25億12百万円（前年同期比7.2%減）、営業損失は3億1百万円（前年同期は営業損失57百万円）となりました。

(不動産賃貸事業)

不動産賃貸事業では、グループ内店舗の遊休スペースの賃貸を推し進めたこと等により、売上高は18億69百万円（前年同期比5.6%増）、営業利益は4億34百万円（前年同期比17.0%増）となりました。

(2) 当四半期累計期間の財政状態の概況

資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、現金及び預金並びに売掛金の減少等により前連結会計年度末と比べ193億99百万円減少し、2,060億56百万円となりました。

流動資産は、売掛金が季節的要因等により63億70百万円、現金及び預金が111億84百万円減少したこと等により、前連結会計年度末と比べ186億16百万円減少いたしました。固定資産は、有形固定資産が減価償却等により6億55百万円減少したこと等により、前連結会計年度末と比べ7億83百万円減少いたしました。

(負債)

流動負債は、買掛金が季節的要因等により70億53百万円及び未払法人税等が法人税等の支払いにより22億88百万円減少したこと等により、前連結会計年度末と比べ115億36百万円減少いたしました。固定負債は、長期借入金が29億48百万円減少したこと等により、前連結会計年度末と比べ29億65百万円減少いたしました。

(純資産)

純資産の部は、利益剰余金が親会社株主に帰属する四半期純利益及び配当金の支払いの結果47億35百万円減少したこと等により、前連結会計年度末と比べ48億97百万円減少しております。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第1四半期連結累計期間の業績について、コストが上昇傾向にあるなか各事業において経費削減に努めました。ファッション事業で既存店売上高が低調に推移したこと等により売上高が計画をやや下回った結果、営業利益は通期の進捗に対し下回って推移いたしました。

通期の業績予想については、中東情勢緊迫化の長期化懸念や継続する物価上昇に伴う消費者の節約志向のさらなる高まりなど先行きは不透明ですが、2026年5月12日(火)に開示しました通期業績予想を変更しておりません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2026年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	27,008	15,824
売掛金	14,479	8,109
棚卸資産	23,370	22,864
その他	6,015	5,456
貸倒引当金	△10	△6
流動資産合計	70,865	52,248
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	66,557	66,082
土地	30,692	30,692
その他（純額）	16,014	15,835
有形固定資産合計	113,264	112,609
無形固定資産	7,121	7,265
投資その他の資産		
差入保証金	6,203	6,130
敷金	19,152	19,285
退職給付に係る資産	1,018	895
その他	7,844	7,634
貸倒引当金	△14	△15
投資その他の資産合計	34,204	33,932
固定資産合計	154,590	153,807
資産合計	225,455	206,056

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2026年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	14,916	7,863
短期借入金	1,000	1,000
1年内返済予定の長期借入金	10,005	8,385
未払法人税等	2,558	270
賞与引当金	1,997	915
役員賞与引当金	152	42
その他	15,377	15,994
流動負債合計	46,009	34,472
固定負債		
長期借入金	18,960	16,011
退職給付に係る負債	66	70
資産除去債務	8,897	8,905
その他	6,314	6,285
固定負債合計	34,238	31,272
負債合計	80,247	65,745
純資産の部		
株主資本		
資本金	23,282	23,282
資本剰余金	22,644	22,644
利益剰余金	100,749	96,014
自己株式	△2,887	△2,887
株主資本合計	143,789	139,054
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	7	1
退職給付に係る調整累計額	1,105	950
その他の包括利益累計額合計	1,112	952
非支配株主持分	306	304
純資産合計	145,208	140,310
負債純資産合計	225,455	206,056

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)
売上高	43,741	43,045
売上原価	25,685	25,534
売上総利益	18,056	17,510
販売費及び一般管理費	15,699	16,330
営業利益	2,356	1,180
営業外収益		
受取利息	28	19
受取配当金	9	0
その他	26	12
営業外収益合計	64	32
営業外費用		
支払利息	63	80
固定資産除却損	8	19
店舗閉鎖損失	30	37
その他	23	32
営業外費用合計	126	170
経常利益	2,294	1,041
特別利益		
固定資産売却益	—	10
特別利益合計	—	10
特別損失		
減損損失	178	460
特別損失合計	178	460
税金等調整前四半期純利益	2,115	591
法人税、住民税及び事業税	69	144
法人税等調整額	741	134
法人税等合計	810	279
四半期純利益	1,304	312
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△2	△6
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,307	318

四半期連結包括利益計算書
第1四半期連結累計期間

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)
四半期純利益	1,304	312
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	7	△5
退職給付に係る調整額	△59	△154
その他の包括利益合計	△52	△160
四半期包括利益	1,252	151
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,254	158
非支配株主に係る四半期包括利益	△2	△6

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等の注記)

前第1四半期連結累計期間(自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	ファッ ション事業	エンター テイメント 事業	アニヴェ ルセル・ブ ライダル事業	不動産賃 貸事業	計				
売上高									
ファッション	22,258	—	—	—	22,258	—	22,258	—	22,258
複合カフェ	—	14,527	—	—	14,527	—	14,527	—	14,527
カラオケ	—	2,274	—	—	2,274	—	2,274	—	2,274
フィットネス	—	1,302	—	—	1,302	—	1,302	—	1,302
ブライダル	—	—	2,706	—	2,706	—	2,706	—	2,706
その他	—	96	—	—	96	7	103	—	103
顧客との契約から 生じる収益	22,258	18,200	2,706	—	43,165	7	43,172	—	43,172
その他の収益	—	21	—	547	568	—	568	—	568
外部顧客への売上高	22,258	18,222	2,706	547	43,734	7	43,741	—	43,741
セグメント間の内部 売上高又は振替高	0	2	1	1,222	1,226	15	1,241	△1,241	—
計	22,258	18,224	2,707	1,770	44,960	22	44,982	△1,241	43,741
セグメント利益 又は損失(△)	753	1,547	△57	371	2,615	△0	2,614	△258	2,356

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、広告関連事業等です。

2. セグメント利益又は損失の調整額△258百万円には、セグメント間取引消去916百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,174百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない提出会社の管理部門等の費用です。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「ファッション事業」、「エンターテイメント事業」及び「不動産賃貸事業」の各セグメントにおいて、店舗の閉鎖が決定したこと等により回収が見込めなくなった営業店舗について減損損失を認識いたしました。なお、当該減損損失の計上額は、当第1四半期連結累計期間においてはそれぞれ0百万円、176百万円及び2百万円です。

当第1四半期連結累計期間(自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	ファッ ション事業	エンター テイメント 事業	アニヴェ ルセル・ブ ライダル事業	不動産賃 貸事業	計				
売上高									
ファッション	21,332	—	—	—	21,332	—	21,332	—	21,332
複合カフェ	—	14,959	—	—	14,959	—	14,959	—	14,959
カラオケ	—	2,123	—	—	2,123	—	2,123	—	2,123
フィットネス	—	1,458	—	—	1,458	—	1,458	—	1,458
ブライダル	—	—	2,508	—	2,508	—	2,508	—	2,508
その他	—	15	—	—	15	40	56	—	56
顧客との契約から 生じる収益	21,332	18,558	2,508	—	42,399	40	42,439	—	42,439
その他の収益	—	21	—	583	605	—	605	—	605
外部顧客への売上高	21,332	18,579	2,508	583	43,004	40	43,045	—	43,045
セグメント間の内部 売上高又は振替高	0	16	3	1,285	1,306	15	1,321	△1,321	—
計	21,333	18,596	2,512	1,869	44,311	55	44,366	△1,321	43,045
セグメント利益 又は損失(△)	△202	1,608	△301	434	1,538	2	1,541	△360	1,180

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、広告関連事業等です。

2. セグメント利益又は損失の調整額△360百万円には、セグメント間取引消去821百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,182百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない提出会社の管理部門等の費用です。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「ファッション事業」及び「エンターテイメント事業」の各セグメントにおいて、店舗の閉鎖が決定したことにより回収が見込めなくなった営業店舗について減損損失を認識いたしました。なお、当該減損損失の計上額は、当第1四半期連結累計期間においてはそれぞれ23百万円及び437百万円です。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第1四半期連結累計期間(自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産及び長期前払費用に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりです。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)
減価償却費	2,506百万円	2,578百万円
のれんの償却額	—	0 〃